



【準決勝・弘前実業vs野辺地西】後半35分、野辺地西はFW中山（左）がゴールを決め6点目。1クヒロダール・ブラスレックススタジアム

野辺西

全国高校サッカー県大会準決勝

山田高

ゴール量産 圧倒

第99回全国高校サッカー選手権県大会は6日、青森市のカクヒロダール・ブラスレックススタジアムで準決勝2試合を行った。青森山田は三木康典に10-1で、野辺地西は弘前実業に9-0でそれぞれ快勝した。4年連続同一カードとなる決勝は、8日正午から同スタジアムで行う。青森山田は24年連続26回目、野辺地西は初の優勝を狙う。

青森山田は前半5分、右サイドのMF仙石のクロスにFW名瀬川が頭で合わせて先制。相手のロングシュートで1点を許したが、名瀬川は頭で連続ゴールを決め、前半だけで3得点の活躍を見せた。後半は主将藤原がPKを決めるなど、終始ボールを支配し2桁得点で圧倒した。

野辺地西は前半3分、ロングパスの処理を誤った相手の隙を突き、FW町屋が先制ゴール。10分で折り返した後半は、攻撃の人数を増やし速いパスでボールをつなぐ攻撃を展開。FW中山、MF木村ら攻撃陣が8得点のゴールラッシュを見せた。

（川越真也、千葉康之）

主将藤原、内容に不満

〇…「やってきたことを徹底できず、満足できる内容ではなかった」。2桁得点で勝利しながらも、青森山田の主将藤原は唇をかんだ。

シュートは36本。黒田監督はサイドを使った攻撃ができたと呼びかける一方で「15点以上は取らないといけない内容だった」と強調した。前半の守りでは相手にシュートを2本放たれ、このうち1本はロングシュートでゴールを許した。シュートを打たせると入る可能性は必ず出てくる。打たれる前にパスを通された。かなりの油断があった」と厳しい表情だった。

昨年の決勝は野辺地西を相手にPKまで持ち込まれ、苦しい末に選手権出場を手にした。黒田監督は「2年連続、決勝で山田らしいサッカーができていない。序盤から点差を広げて優位に試合を進めたい」と語った。

あす決勝

攻撃修正、後半8得点

〇…野辺地西は前半の攻撃の反省点を生かし、後半は8得点。一番で持ち前の得点力を発揮した。

三上監督は「前半は決定機をつくって、シュート精度が悪かった」と指摘。主将鈴木も「2点目、3点目を奪い、前半で試合を決められなかったのは課題」と振り返った。

それでもハーフタイムに、攻撃の厚みを出し、パスの選択肢を増やす意識を共有。これが奏功し、後半は速いパス回しで相手を手玉に取り、スペースを有効に使って試合終了まで攻め続けた。

三上監督は決勝に向け「守備からどれだけ攻撃につなげられるかが鍵になる」と分析。鈴木は「数少ないチャンスは全員で決めて、歴史を変えたい」と必勝を誓った。